

かつのおじょうかまち
勝尾城下町遺跡2

鳥栖市教育委員会



肥前州基肄郡勝尾山筑紫広門公城跡之図（福岡市博物館所蔵）

江戸時代後期の勝尾城絵図が残っています。絵図には城跡や館跡、屋敷跡、大手口などが描かれており、その様子は現在の景観とも一致し、当時の姿を推測する上で貴重な資料となっています。

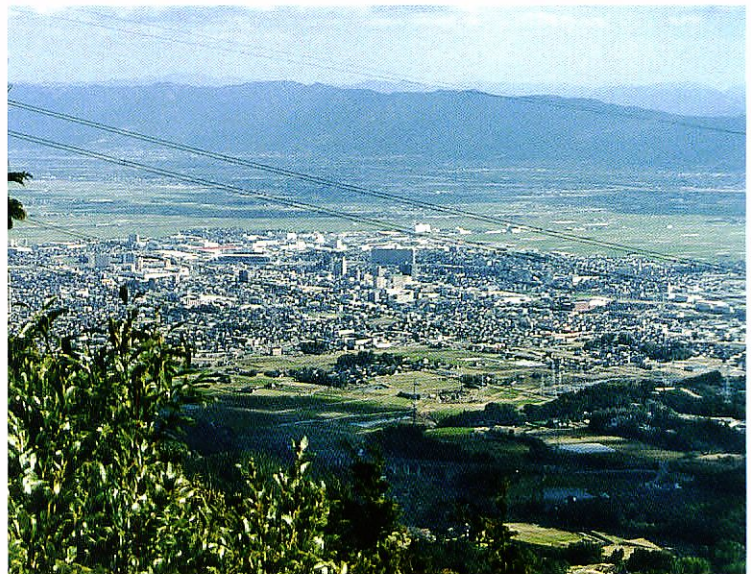
勝尾城下町遺跡の特徴は、四阿屋川に沿った狭くて長い谷部をとりこみ、谷全体を城下町としていることです。谷の奥に最も高くそびえる山が城山で、その頂上に本城の勝尾城（標高501.3m）があります。

この勝尾城を中心に、谷を挟んだ南北の尾根上には、4つの支城と1つの砦が配置されています。北尾根上には若山砦、南尾根上には、高取城と葛籠城があり、安良川を挟んだ東の山上には鏡城があります。また谷の最奥部には鬼ヶ城があり、勝尾城の背面の守りに備えています。これらの城郭は互いに関連し合い、谷全体を防御性の高い城下町としています。さらに谷の内側は4ヶ所の堀と土塁（防御のための土手）で防備され、大きく4空間に区分されています。最も谷の奥が、筑紫氏の館を中心とする領地支配の中核空間、二番目が、東西に流れる四阿屋川の北に全慶寺跡と伝えられる寺社跡と武家屋敷跡、南には地元で「ハルカド」



勝尾城下町遺跡遠景（南から）

や「トモキヨ」と伝えられる伝承地（武家屋敷跡）が残る寺社や武家屋敷の空間、三番目は、四阿屋川を挟んで北に四阿屋神社（養父郡の総社）と、南に葛籠城を中心とする武家屋敷が集中する空間、四番目が、最も外側の空間で、商業活動に関わる町屋となっています。さらに谷の最も外側には「総構」と呼ばれる空堀があり、谷を遮断するようにして城下町を防備しています。このように各空間は計画性をもってつくられていることが明らかになりました。もともと武家の空間と、町屋を主とした商業活



勝尾城から望む市街地

動を営む空間は、性格・立地を異にしており、別々の場所にあったと考えられています。武家政権が強大になる戦国期になると次第に城を中心にして一体化され、最終的に江戸時代の城下町へと発展していきます。

勝尾城下町は町屋を城下町の領域内に取り込んでいるのが大きな特徴で、戦国時代から江戸時代へ移行していく状況をよく示しています。谷を利用し山上に城を構え、しかも町屋を配置して城下町を形成していることは、戦国時代後期の城下町の姿をよく表しています。

これまで、戦国時代の城下町研究で勝尾城下町遺跡は、あまり知られていませんでした。しかし、近年の調査により勝尾城下町は、全国でも有数の戦国時代における城下町遺跡として、各方面から高い評価を受けるようになりました。